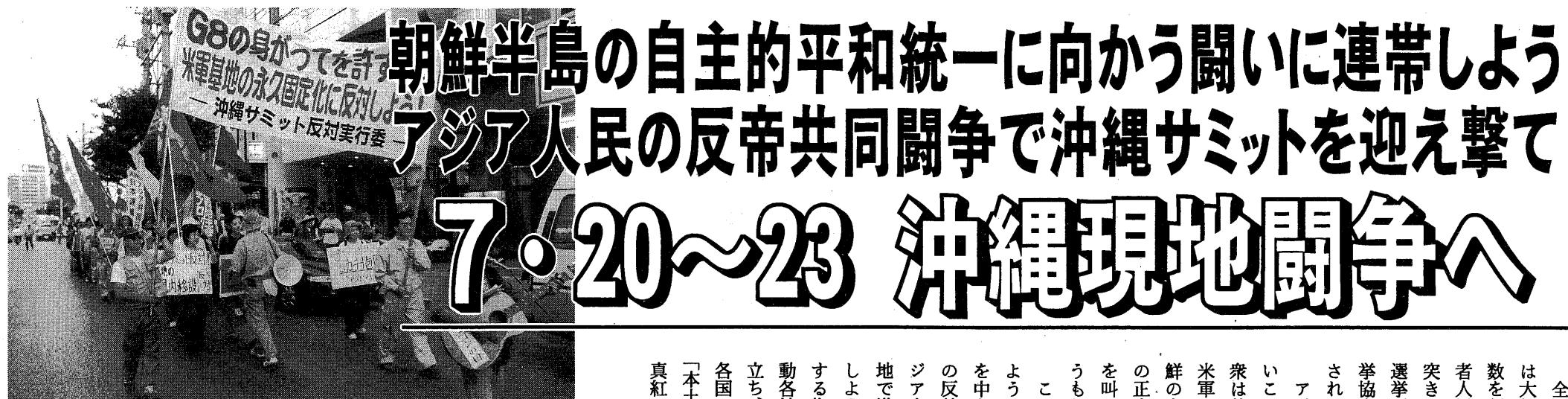


国際帝国主義の侵略反革命・第三世界支配を粉碎し、全世界の帝国主義を打倒せよ！世界プロレタリア革命－世界プロレタリア独裁－共産主義を実現する新しいインターナショナル 世界単一党 を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

7月政治アピールP2~3 南北首脳会談が意味したものP4~5 フィリピンISA報告P6~8	2000年 7月1日 第540号 編集発行人 海路 薫 一部 300円	烽火 NOROSHI	共産主義者同盟（全国委員会） ■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19 明豊ビル401号 大労協内 TEL(06)6371-3706 ○郵便振替 00930-0-63333 ○銀行口座 第一勧銀 551-1058150
---	---	----------------------	---



沖縄での反サミット闘争（5月15日・沖縄）

沖縄サミット反対！！

7・21～23連続反対行動へ

7・20(木) 嘉手納基地包囲行動参加

☆7・21(金) ①名護市内デモ 12:00 集合さくら公園、集会・デモ
②国際集会 18:00 集合 浦添市社会福祉センター

☆7・22(土) ①名護市内デモ 10:30 集合さくら公園、集会・デモ
②那覇市内デモ 18:00 集合 県庁前・首里向けデモ

☆7・23(日) ①名護市内デモ 10:30 集合さくら公園、集会・デモ

主催 G8の身勝手を許すな！

米軍基地の永久固定化をたくらむ沖縄サミットに対する実行委員会

(呼びかけ／西尾市郎、知花昌一、島田善次、まよなかしんや、島田正博)

全国のたたかう労働者人民の皆さん！六月二五日の総選挙で、与党三党は大幅に議席を後退させ、まさに惨敗を喫した。とりわけ自民党は、過半数を割り込み、単独では政権を維持できないところにまで後退した。労働者人民はこの総選挙において、はつきりと森・自公保連立政権に不信任を突きつけたのだ。にもかかわらず森政権がかろうじて維持されたのは、小選挙区比例代表並立制という自民党に圧倒的に有利な選挙制度と与党内選挙協力の結果にすぎない。森政権を打倒する労働者人民の決起こそが組織されいかねばならない。

アジアの情勢もまた、6月の朝鮮南北首脳会談をもって大きく流動している。韓国では、この南北首脳会談と共同声明をたたかう民衆は熱烈に歓迎し、南北の統一を実現するために国家保安法の廃止と駐韓米軍の撤退に向けて大攻勢を組織していくとしている。これまで「北朝鮮の脅威」を理由として強化されてきた東アジア米軍一〇万人体制は、その正当化の根拠を失った。日米帝や金大中政権がいかに駐韓米軍の重要性を叫ばとも、アジアからの米軍の撤退を要求するたたかいはおし止めようもなくアジア規模で拡大していくであろう。

このような中で沖縄サミットが、労働者人民のたたかいに挑戦するかのように、帝國主義的グローバリゼーションを推進し、新ガイドライン安保を中心としたアジアにおける日米帝の政治的・軍事的支配を強化し、沖縄の反基地運動を解体するために開催される。このような沖縄サミットをアジア人民の反帝国際共同闘争で迎え撃とうとするたたかいが、いま沖縄現地で準備されている。総力をあげて、7・21～23沖縄現地闘争に決起しよう。沖縄を戒厳体制のもとに置き、反サミット闘争をおしつぶそうとする権力の重包囲を突き破り、沖縄現地に決起しよう。六月アジア共同行動各地集会を成功させたアジア共同行動日本連の現地闘争派遣団の先頭立ち、沖縄の先進的労働者人民とともにたたかい抜こう。そして、アジア各国・地域の代表とともに、沖縄に集結する帝國主義の頭目どもに沖縄一「本土」－アジアの労働者人民の怒りをたたきついこうではないか。真紅の国際主義の旗をかかげ、全国各地から沖縄へ！ともにたたかわん！

第三次森連立政権を打倒せよ

七月政治アピール

開闢争へ労学の総力で決起せよ 沖縄サミット粉碎！沖縄現地

いよいよ九州・沖縄サミットをめぐるたたかいに総力で決起すべき時がきた。わが同盟は、全国の先進的労働者・学生に対し、七月沖縄サミット粉碎闘争に総決起する」と訴える。

戒厳体制突き破り現地闘争へ

世界の帝国主義八ヵ国（G8—米、日、英、仏、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシア）によるサミットは、蔵相会議が七月八日から九州・福岡で、外相会議が七月二二日～二三日に九州・宮崎で開催され、G8首脳会議が七月二一日～二三日にかけて沖縄・名護で開催される。日本政府は、一萬二〇〇〇人の空前の警備弾圧体制をもって、九州・沖縄サミット反対闘争に備えている。

そもそも、この間浦添新軍港建設、さらに名護新基地建設をはじめとする沖縄米軍基地の再編強化を推進してきた張本人こそ日米両帝国主義である。日米帝国主義は、九六年米兵による少女暴行事件以来、大きな高揚を実現してきた沖縄人民の反基地・反安保闘争に対して、これを解体するために全体重をかけた攻撃を策動してきた。日米帝国主義は、沖縄人民の基地の整理・縮小という要求を逆手にとって、基地の新たな再編成を推進しようとしてきた。沖縄の米軍基地は、日米新ガイドラインと周辺事態法のもとで、これまでにも増して、日米帝国主義の侵略反革命前線基地としての機能強化をともなって新たに再編成されようとしてきたのである。そして日帝は、「本土」との大きな経済格差を強制してきた沖縄の現状についてこんで、「経済振興策」と称して買収金をばらまくことで基地の新たな押しつけをはかつてきただ。

日米帝国主義こそが侵略反革命前線基地という位置を沖縄に強制し続け、また新たにそれを強化していくこうとする一切の元凶である。日米帝国主義こそが、歴史的に沖縄人民にありとあらゆる基地被害と苦悩を強いてきたのだ。そして、新たに強いていこうとしているのだ。

沖縄サミット開催は、沖縄の反基地闘争・反安保闘争を解体し、その瓦礫（がれき）の上に帝国主義サミットを開催しようという日米両帝

国主義のまったく反革命的な野望に貫かれたものとして決定されたのである。そして日帝は、

沖縄反基地闘争の解体の上にアジアの盟主としての自己の位置を確立する一環として、この九州・沖縄サミットを準備してきたのだ。沖縄の反基地闘争を憎悪し、あらゆる手段でこれを解体しようとしてきた米帝クリントンは、内外の沖縄戦の犠牲者の名を刻んだ平和の礎（へいわのいしじ）の前で、在沖米軍基地の戦略的重要性とこれを受け入れてくれた沖縄の人々に感謝するという趣旨の演説を行うという。この

ような沖縄戦の犠牲者と基地撤去を要求する沖縄人民に対する愚弄（ぐろう）を許してはならない。こうした日米帝国主義の野望に貫かれた

反帝国際共同闘争で迎え撃て

これに対して、全国の労働者・学生によってさまざまなたかいの準備が進められてきた。沖縄現地では、「G8の身勝手を許すな！米軍基地の永久固定化をもくるむ沖縄サミットに反対する実行委員会（沖縄サミット反対実）」（よびかけ・島田善次、島田正博、知花昌一、西尾市郎、まよなかしんや）によつて、沖縄サミットに反対する国際共同闘争が呼びかけられている。

このたたかいには、「本土」の側からはアジア共同行動日本連絡会議と一坪反戦地主会関東ブロックが協賛している（六月一二日段階）。沖縄サミット反対実は、七月二二日に「アジア連帶・沖縄サミット反対集会」（午後六時三〇分から／浦添社会福祉センター）を開催し、七月二二日、二三日、二三日と連続した名護市内デモ行進（二二日は午後〇時から名護さくら公園、二二日・二三日ともに午前一〇時三〇分か



沖縄サミット粉碎！沖縄現地闘争へ（写真は5月15日）

ら名護さくら公園）を貫徹し、さらに二二日夕方の那覇市内デモへの結集を呼びかけている。このたたかいには、フィリピン（BAYAN・新民族主義者同盟）、韓国（AWC韓国委員会、米軍基地犯罪根絶対策本部）、台湾（労働人権協会）、インドネシア（反帝国際会議組織委員会）などのたたかうアジアの人民が結集する予定である。

沖縄サミット反対実は、すでに五月一五日、六月二三日と連続して沖縄サミットに反対する決起集会とデモを那覇で開催してきた。この沖縄サミット反対実が呼びかける七月沖縄現地のたたかいこそが、唯一帝国主義サミットそのものに正面から反対する国際的な共同闘争として呼びかけられたたたかいである。連合・社民党・共産党の制動を打ち破り、反基地闘争を反帝国主義闘争として真正面から立ちふくらみ、沖縄サミット

トに反対するたたかいを国際的に呼びかけた沖縄サミット反対実のたたかいの意義は、きわめて大きい。

沖縄サミット反対実は次のように提起している。「サミット推進眞民会議などは『サミットを平和のかけはし』などと宣伝しています。だがそれはサミット諸国の巨大資本・多国籍企業による世界諸國人民からの収奪を最大限にするための『平和』です。そのために米国は、日本政府と共に謀し、沖縄に巨大な軍事基地をもつて居座り、さらに辺野古や浦添沿岸に新たな基地建設をねらい、在沖米軍は今もイラクなどへ出撃しています。その銃口の向こうには、侵略と収奪に抗し、人間の生活を取り戻すために苦闘する人がいるのです。収奪と抑圧の淵から、人間的生存をかけたたかいに立ち上がるアジア世界の民衆とともに、G8・沖縄サミット反対の連続行動を共に闘おう」(沖縄サミット反対闘争への呼びかけ文より)。沖縄サミット

反対実は、日米帝国主義をはじめとした帝国主義諸国による世界支配の現実と、それを維持するための帝国主義軍隊と基地の存在を批判し、基地の撤去と反帝国主義闘争を国際的に呼びかけているのだ。

そして、この沖縄サミット反対実の呼びかけに応え、米軍基地をたたき出したフィリピン人民、さらに朝鮮半島の自主的平和統一のために在韓米軍の完全撤収を要求する朝鮮(韓国)人民、また中国台湾問題をめぐる米帝の介入とたかう台湾人民、スハルト独裁政権を打倒したインドネシア人民などが、帝国主義サミットに反対するために沖縄に結集し共にたたかうのだ。すなわちこのたたかいは、東アジア・東南アジアから米帝による支配を一掃し、日帝のアジア支配の帝国主義的野望と対決するアジア諸国・地域の共同のたたかいの一環である。

今や南北朝鮮の統一を求める朝鮮(韓国)人民にとって、朝鮮半島、さらには東アジアから米軍を一掃するたたかいは最も緊要かつ第一級の課題となつた。六月南北首脳会談の開催によって大きく動きだした朝鮮半島の統一にむけたたかいに対し、完全に敵対し逆行するものこそ日米安保・新ガイドライン・日米帝国主義の侵略反革命戦策動に他ならない。沖縄・「本土」、韓国における米軍基地と米軍の存在こそ、南北統一のために完全に一掃されなければならぬのだ。日米新ガイドライン・日米帝国主義の侵略反革命戦策動をはずたに粉碎していくこう。沖縄サミットを国際反帝共同闘争の爆発で迎え撃とう。東アジアから米軍を一掃するたかいを前進させよう。帝国主義諸国首脳に、

国際的な反帝闘争の爆発をたたきつけよう。帝國主義の侵略反革命前線基地リ沖縄を、サミット粉碎闘争を通して逆に反帝主義の国際拠点へと確立し、うち固めていこう。

全国の先進的労働者・学生は、かかる反サミット闘争と固く結合するものとして、AWC(日本民族主義同盟)、台湾労働人権協会、AWC韓国委員会、インドネシア反帝国際会議組織委員会、アジア共同行動日本連絡会議が国際的に呼びかけている、「日米安保・新ガイドラインと東アジア米軍一〇万人体制に反対し、沖縄本土、韓国からの米軍基地の撤去を求めるアジ

沖縄ー「本土」を貫く総決起へ

このような沖縄現地でのたたかいに運動し、「本土」の各地において、あるいは労働運動や学生運動などの各戦線で、沖縄サミットに対応したさまざまなたたかいが準備されてきた。蔵相会議が開催される福岡では、蔵相会議に对抗するたたかいが呼びかけられている。労働運動では、「規制緩和に反対する労働者サミットin沖縄」の開催準備が、全労協、全港湾、全日建連労組などを中心とした左派労働運動の共同の力で進められてきた。これは、韓国、台湾、フィリピン、香港、ニュージーランド、ロシアなどの労働組合を招いて、六月三〇日に大阪集会(午後六時から)・大阪市中央区民センター(午後六時から)・大阪会館(午後六時から)・ホタル、二日午後六時から沖縄での国際会議・シニアワーカー)という一連の予定で開催される。この労働者サミットは、帝國主義的グローバリゼーションと新自由主義政策の下で、各國・地域で吹き荒れる規制緩和、民営化、失業、非正規雇用・不安定雇用化の増大による労働条件の悪化、労働者の諸権利のはく奪攻撃、労働運動に対する解体攻撃に対して、また多国籍資本による他国労働者の搾取・収奪や労働運動弾圧の強化に対抗する共同のたたかいを発展させていく一環であり、階級的労働運動の国際的共同闘争に強く寄り添って重要なたたかいである。

労働者サミットの成功のために奮闘し、日本労働運動の国際主義に立脚した前進をおし進めていこう。

また関西においては、七月一七日に「しないさせない戦争協力・関西ネットワーク」が中心となって、沖縄サミットに反対し沖縄の反基地闘争に連帯するための全関西決起集会(午後六時三〇分から/扇町公園)が予定されている。「本土」の各地において、沖縄現地のたたかい

ア共同署名」運動を、沖縄ー「本土」を貫いて全国で推進しよう。

また、七月二〇日には、「基地はいらない人間の鎮県民大行動実行委員会」の主催で、嘉手納基地包囲行動(午後二時から三時)が呼びかけられている。同じく二〇日には、「基地・軍隊に反対する平和交流集会」(午後六時三〇分から/嘉手納町文化センター)が平和市民連絡会によって呼びかけられている。こうした一連のたたかいに、全国の先進的労働者・学生が反帝國際主義派として総力で結集し、沖縄サミットによって呼びかけられている。こうした一連のたたかいに、全國の先進的労働者・学生が反帝國際主義派として総力で結集し、沖縄サミットに反対闘争の大爆発を大衆的にかち取つていう。沖縄サミット反対実のよびかけに応え、戒厳体制を打ち破り総力で沖縄現地闘争へ!

7・17 関西集会

7月17日午後6時 扇町公園

主催・しないさせない戦争協力・関西ネットワーク

サミットを利用した押しつけは許さない! 沖縄・嘉手納基地包囲行動連帯!

歴史的な南北首脳会談の意義と 日本の先進的労働者人民の任務

六月一三日から一五日にかけて、韓国の金大中大統領が平壤を訪問し、全世界が注視するなかで史上初の南北首脳会談が開催された。そして、六月一五日には五項目にわたる歴史的な南北共同宣言が発表された。南

人民にとって祖国の統一は念願であり続けてきた。そして、それゆえに、今回の南北首脳会談と南北共同声明を受けて、祖国統一に向けた大きな期待が一挙に高まつていこうとしている。

れは、歴史的に抑圧民族の一員として存在し続けてきた日本プロレタリアートとして、南北朝鮮（韓国）の自主的平和統一とここに向けたあらゆる動きを断固として支持する。われわれは、朝鮮半島が日帝の植民地



南北首脳会談の

歷史的意義とは

北は、本年八月一五日（独立記念日）に際し、離散家族、親戚訪問団を交換することも、韓国内の非転向長期間問題など人道的問題を早急に解決していくこと。④南北は、経済協

力を通して民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境などあらゆる分野での協力を交流を活性化させること。⑤南北は、以上のような合意事項を早急に実行に移すため、早い時期に当局間の対話を開催すること。また、金大中大統領の要請により、金正日国防委員長は今後適切な時期にソウルを訪問する（以上要旨）、というものであつた。報道によれば、この他にも、在

韓米軍問題、日朝関係・米朝関係問題をはじめ、公式・非公式に多方面におよぶ意見交換がなされたという。南北首脳会談と南北共同声明を受け、南北軍事境界戦における相互批判宣伝が中止されるなどの措置もさうそく取られた。

南北首脳会談とその結果に對して、南北朝鮮（韓国）人民と在日朝鮮人・韓国人および在日諸団体は熱烈に支持を表明し、これを歓迎した。韓国では、離散家族の登録に人々が殺到しました。離散家族は一〇〇〇万におよぶ。また、南北首脳会談と南北共同声明を受けて、総連と民団は双方の交流を本格的に開始していくことなどを表明した。朝鮮（韓国）

アートに連帯を

南北フローレタリ

韓米軍問題、日朝關係・米朝關係問

他方で、朝鮮半島の自主的平和統

である。

である。
南北プロレタリ
アートに連帯を

韓国ブルジョアジーに立脚する金

への熱望を反映したものであることは明白である。だが他方で、それは南北の支配当局者の利害を反映したものであることもまた一方の真実で

他方で、朝鮮半島の自主的平和統一をめざす韓米軍問題、日朝関係・米朝関係問題

である。

への熱望を反映したものであること

他方で、朝鮮半島の自立的平和統一にとって決定的な阻害要因である駐韓米軍の撤退問題や、共和国敵視法であり統一に向けてたたかう韓国人民への弾圧法である国家保安法の撤廃問題などは一切触れられていない。たゞ、主導権を握る西側陣営は、南北首脳会談と南北共同声明を受け、南北軍事境界戦における相互批判宣伝が中止されるなどの措置もさつておられない。

である。
南北プロレタリ
アートに連帯を

への熱望を反映したものであることは明白である。だが他方で、それは、南北の支配当局者の利害を反映したものであることもまた一方の眞実である。

動力市場・商品販売市場への北朝鮮の編成を一挙におし進めていくこととされている。北朝鮮における自由貿易地域の建設とともに、韓国資本の進出が堰(せき)を切るように開始されていくだろう。韓国の金大中政権にとって、朝鮮半島の統一とはあくまで反共統一であり、資本主義的統一以外の何ものでもない。

他方で共和国もまた、餓死者まで生み出してきた深刻な経済危機から本格的に抜け出していくためには、韓国ブルジョアジーからの経済援助を切実に必要としてきた。共和国は、イタリアやオーストラリア、フィリピンなどとの国交を樹立しつつ、ARF(ASEAN地域フォーラム)などへの加盟申請など、自己の生き残りをかけた国際環境の形成を追求し始めたのである。今回の南北首脳会談が、日朝国交回復、米朝国交回復などへの弾みとなっていくことは確かである。だが、共和国を支配する朝鮮労働党は、スターリン主義政党の一翼であり、共和国内プロレタリアートの階級的利益を擁護する政党ではない。

こうした中でわれわれは、朝鮮半島の自主的平和統一を求める南北プロレタリアートのみが、統一を最後まで完遂できる階級であると確信する。

南北プロレタリアートにとって南北統一は、階級闘争の細分化ではなくその結合と单一化を意味する。

南北プロレタリアートこそが、南北朝鮮の統一という全民族的要求の先頭に立ってそれを最後まで推進し

る。南北朝鮮の統一という民族的要求を、反共という階級的利益の前に不斷に裏切り、帝国主義と結託して南北統一は、南北の統一を実現する重要な統治の自己の延命のために共和国プロレタリアートを抑圧し、自己の延命に統一問題を従属させてきたのが朝鮮労働党であった。南北プロレタリアートのみが、統一問題をめぐるこうした南北当局者の不徹底さとはまったく無縁な階級である。

南北の自主的平和統一に向けて、帝國主義による一切の介入と干渉を首尾一貫して排除することのできる階級は、南北のプロレタリアートだけである。われわれは、統一にむけた全力で支持し、かつこれに連帶する。

生き残りをかけた国際環境から本格的に抜け出していくためには、韓国ブルジョアジーからの経済援助を切実に必要としてきた。共和国は、イタリアやオーストラリア、フィリピンなどとの国交を樹立しつつ、ARF(ASEAN地域フォーラム)などへの加盟申請など、自己の生き残りをかけた国際環境の形成を追求し始めたのである。今回の南北首脳会談が、日朝国交回復、米朝国交回復などへの弾みとなっていくことは確かである。だが、共和国を支配する朝鮮労働党は、スターリン主義政党の一翼であり、共和国内プロレタリアートの階級的利益を擁護する政党ではない。

こうした中でわれわれは、南北朝鮮の自主的平和統一にむけた事業に真っ正面から敵対するのが日本帝国主義であり、日本帝国主義による侵略反革命戦争策動を許さない闘争に日本の労働者人民が立ち上がるがねばならないことを強く訴えるものである。

南北朝鮮の自主的平和統一にとって、帝国主義諸国の干渉を排除することが一切の前提である。米帝は共和国と未だ停戦状態にある。そして、韓国には三万七〇〇〇の米軍が駐留し、巨大な米軍基地が存在している。そして、この韓国に駐留する米軍は、朝鮮戦争停戦後、今日に至るまで共和国軍との戦闘再開に備えてきたのである。またこの間、日米両帝国主義は、日米安保・新ガイドラインの締結によって、朝鮮半島での侵略反革命戦争に万全の備えを行おうとしてきたのである。日帝は、「北朝鮮の脅威」を煽動し、朝鮮侵略反革命戦争に対応した「周辺事態法」の制定をもって労働者の戦争動員策動さえ開始してきたのだ。今回の南北共同声明においては、統一問題の自主的な解決という原則が確認されつゝも、こうした駐韓米軍の問題についてはまったく触れられていない。しかし、南北統一を実現するためには、南北分断の元凶である米帝とその軍隊の韓国からの完全撤退が不可欠であることは余りにも明らかである。

だからこそ、南北首脳会談後に訪韓した米国の大統領は、駐韓米軍の撤退を要求するたまに高揚に備えて米軍の韓国駐留の必要性を力説し、金大中大統領もまたこれに改めて同意した。米帝と金大中政権は、朝鮮半島に永続的に米軍が駐留することが望ましいと主張しているのである。米帝と日帝、

★ 介入に對決せよ ★

南北共同宣言の全文

【ソウル15日共同】韓国の金大中大統領と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の金正日総書記(国防委員長)が14日、平壌で署名した南北共同宣言の全文は次の通り。

祖国の平和的統一を念願する全民族同胞の崇高な意思に従い、金大中大統領と金正日国防委員長は2000年6月13日から6月15日まで平壌で歴史的な出会いをし、首脳会談を行った。

南北首脳は分断の歴史上初めて開かれた今回の出会いと会談が、互いの理解を深め、南北関係を発展させ、平和統一を実現する重要な意義を持っていると評価し、次のように宣言する。

1、南と北は国の統一問題をその主人であるわが民族のみで、お互いに力を合わせ自主的に解決していくこととした。

2、南と北は国の統一のために、南側の連合制案と北側の緩やかな連邦制案に共通性

があると認定し、今後この方向で統一を志向していくこととした。

3、南と北は今年8月15日に合わせ、離ればなれになってしまった家族と親せきの訪問団を交換し、非転向長期囚問題を解決していくこととした。

4、南と北は経済協力を通じ民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境など、諸般の分野の協力をと交流を活性化させ、互いの信頼を確かめることにした。

5、南と北は以上のような合意事項を速やかに実行に移すため早期に当局者間の対話を開始する。

金大中大統領は金正日国防委員長がソウルを訪問するよう丁重に招請し、金国防委員長は今後、適切な時期にソウルを訪問することとした。

2000年6月15日
大韓民国大統領 金大中
朝鮮民主主義人民共和国国防委員長 金正日

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

今回の南北首脳会談を支持する日帝は、帝國主義の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

米帝の動きには、共和国を帝國主義によるアジア支配秩序の枠内へ組み込みつつ、共和国の解体を促進していくとする巨大な策動が背景に存在している。すでに南北首脳会談を前後して、激しい外交戦が関係諸国間で開始された。

フィリピン

グローバリゼーションとの闘争を反帝国主義へと発展させることを宣言 反サミット闘争への支援連帯を決議

フィリピンのナショナルセンターKMUの主催による第一七回目のISA(国際連帯集会)が、四月二十九日から五月八日までの日程で開催された。今年のテーマには「労働者への攻撃を許すな! IMF、世界銀行WTOに反対しよう! 帝国主義の支配に反対しよう!」が掲げられた。

海外からインド、パキスタン、バングラデイシュ、韓国、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、ドイツ、ベルギー、そして日本の一ヵ国・地域の労働運動の代表が参加し、これにKMU中央と各産別中央の三役、各地方支部の代表が参加して会議が行われた。

今年のISAにおいては、とりわけ帝国主義的グローバリゼーションが席巻するなかで、そのもたらす全世界の労働者、人民への惨禍と、それに対するシアトルでの反WTO闘争にみられる反撃の開始が強く意識されたものであった。KMUは、本年ISAの開催にあたって国際・国内的に次のようなことを追求していた。第一に、各国のたたかいの経験を交流するとともに、この開始された労働者人民の反撃を国際的な反帝主義のたたかいとしてその方向性を強く打ち出し、その流れを国際労働運動のなかで定着させること。

第二に、これと結合して、フィリピン国内の労働運動指導において、反帝国主義、国際労働者の連帯による反撃という基準で労働者を階級的に教育し、資本・権力との攻防に耐え、フィリピンの御用組合であるTUCP潮流との組織戦に勝利することである。

日本の労働運動にとって、このISAへの参加は次のような意味をもつものであった。それは第一に、国際的な資本の攻撃の激化に対するたたかいを、アジアをはじめとした

世界の労組・労働者と共に前進させていくこと。フィリピンKMUなど参加したアジア労組との相互支援関係を強化することである。第二に、日本の労働者に対する攻撃をどうはね返すか、開始した抵抗と左派労働運動の基礎をどう拡大するか、という観点から、他国の経験を収集することである。

メーデーの翌日から、四コースに分かれて各地方へのエキスポージャーが行われた。マニラ首都圏へのエキスポージャー参加者は、マニラ首都圏地方支部の案内で、国内有数の電話通信会社のPT&P労組のピケットラインを訪問した。労組(一四〇〇人)は、不当解雇と系列会社の名

目的合併とともになう人員削減合理化に反対して争議中であり、これに対して資本は高額の営業妨害賠償請求の裁判に訴えるという攻撃をかけている。日本での企業再編法制化を先取りするかのような攻撃であり、労組の団結権を兵糧攻めにしようといふ魂胆である。

五月一日のメーデーは、全国主要都市で開催され、ISA参加者はマニラのボニファシオ広場での中央集会に参加した。熱氣あふれる集会は数万の労働組合員、人民組織代表を結集して炎天下で開催された。

今年のメーデーの特徴は、KMU

による変圧器製造企業における倒産争議中の労組と交流した。ここでは、労働者のためのミサを行い、そこにKMUのリーダーも一部参加したことであった。メーデーの翌日から、四コースに分かれて各地方へのエキスポージャーが行われた。マニラ首都圏へのエキスポージャー参加者は、マニラ首都圏地方支部の案内で、国内有数の電話通信会社のPT&P労組のピケットラインを訪問した。労組(一四〇〇人)は、不当解雇と系列会社の名目的合併とともになう人員削減合理化に反対して争議中であり、これに対して資本は高額の営業妨害賠償請求の裁判に訴えるという攻撃をかけている。日本での企業再編法制化を先取りするかのような攻撃であり、労組の団結権を兵糧攻めにしようといふ魂胆である。

構成である。双方とも工場内見学の機会を与えられ、労組が換気、高熱、粉塵などの悪条件の改善のための執拗に努力している現状を見た。また、派遣労働者の正規雇用化の困難な取り組みの報告を受けた。両組合とも企業内の課題のみならず、同時にKMU首都圏支部や周辺地域の中心組



メーデー集会で演説するKMUのベルトラン議長(5月1日マニラ)



メーデー集会では、たたかいの歌やおどりも紹介される(同上)

合として活動していた。

これらに端的なよう、フィリピンではおしなべて次のような現実が進行していた。

第一に、政府の規制緩和、貿易の自由化、外資導入の促進による地場産業の倒産の増大と失業の増大（政府統計ですら失業者は六〇〇万という）である。また正規雇用労働者を臨時工と派遣労働者によって置き換える政策が推進され、その数はついに正規雇用労働者を上回った。

第二に、低賃金維持政策である。多くの企業で地域別最賃（マニラで日給二三ペソ＝五ドル）ぎりぎりの低賃金が強要され、しかもこれにすら違反する企業が多い。他方で政府発表最低生活費は、一世帯一日四八ペソである。これに対してKMUは今、最賃の日給全国一律一二五ペソアップ、公務員の月給三〇〇〇ペソアップを要求している。

第三に、非正規雇用労働者は労組加入ができないため、おしなべて組織率が減少している。これに対する対抗策として、KMUは公務員関連の組織化や地域における失業、半失業者の組織化に力を入れている。

第四に、労組潰しのための企業閉鎖、倒産争議が続発しており、これに対しマニラホテルの争議にみられるように、警察一軍の暴力的弾圧が日常化していることである。

同時にKMUは、人民諸階層の組織化、共闘を推進している。二年前に組織化に踏み切ったKADAMA Y（スマム、在住の労働者人民の組織）は前進している。さらに、KMUは、BAYANなど他の大衆組織とともに、反VFA闘争、反改憲闘争に立ち上がり、エストラーダ政権の打倒

を掲げるに至った。

エストラーダ政権は、「貧者の味方」という隠れ蓑を脱ぎ捨て、文字どおりグローバリゼーションの先頭

にたって、今や水道、電気、医療、学校まで民営化し、外国資本に売却している。石油代値上げなど大衆収奪政策をかねて強行し、露骨な

縁故主義（旧マルコス派財閥の復権登用）や腐敗汚職をはびこらせ、これらを批判するマスコミを弾圧し、主要新聞のひとつを閉鎖に追い込んだ。それはさらに、昨年四～五月のVFA（米軍一時駐留協定）成立の強行や、外資優遇のために国家主権をも大幅に制限する憲法改悪へとエスカレートした。

これに対して、昨年五月には反VFA闘争が大衆的にたたかわれ、AKINIO派など支配層の一部をも巻きこんだ広範な八～九月の反改憲闘争が全土で取り組まれ、改憲策動を頓挫させた。今年二～三月にかけてのVFAを実践化した米比合同軍事演習の強行に対しても大衆的抗議闘争が爆発した。以降、支配階級内部の分裂も拡大してきており、最近の特徴は、エストラーダ政権に対して広範な批判が拡大していることである。従来からの基層大衆の抵抗のみならず、中小ブルジョアジーの一部、教会勢力も離反と批判を始めた。エストラーダ政権は早くもアキノ、ラモス時代の末期的様相を呈しており、このまま続けば辞任要求運動が増大し、任期の二〇〇四年までもない

というマスコミもある。このような中でKMUはこのたたかいの中心部隊として先頭に立っている。

ISA本会議

ISAの本会議では、参加各國・

地域の現状報告が提起され、その論議が行われた。全体に労働者をとり

まく状況はますます類似し、グローバリゼーションのもとで、各国ではほとんど共通の問題が同時に進行し

ている。項目だけ掲げるならば、第

一に、自由化・規制緩和・民営化の

進行。そして倒産・企業のリストラ

統廃合・失業の増大である。第一に、福祉予算の切下げ、労働者人民の生

活条件の悪化、貧富の拡大である。

第三に、労働分野の規制緩和、すな

わち「雇用の柔軟化」、派遣労働に

よる正規雇用の置き換え、不安定雇

用の増大、賃金凍結、切下げなどに

よる労働条件の悪化である。第四に、

労組組織率の減少や労働者の権利・

労組活動・争議への攻撃の増大、で

ある。これに対してようやく人民

の抵抗、反撃が国際的規模で始ま

た。シアトルでの反WTO闘争から

ワシントンでの反IMF行動に至る

たたかいがそれである。各国での運

動を強化していくと同時に、それに

とどまらず国際的なこのたたかいを

世界的に、左派労組や主な運動潮流は次のように現状を見ている。グローバリゼーションの弊害は、アジア経済危機でこのうえなく鮮明に示されたが、ついに昨年のシアトルでの反WTO総会キャンペーンで、世界的な運動としてダイナミックに噴出した。昨年のシアトルWTO闘争に抗議して各国から結集した人の大衆的なたたかいは、進行する

グローバリゼーションの蓄積した矛盾が隠しようもなく噴出し、国際的

に結合した人民の抵抗と決起が大衆的に行なわれた。第一に、資本の側のグローバリゼーションに対する労働の側のグローバリゼーションを！」というスローガンが公然と叫ばれはじめた。ここにみられる大衆運動の国際的結合、第三世界と帝国主義国の労働組合の共闘などは画期的な事態であった。

この運動は、いまだ多様な部分の一時的な結集としてあるが、この背景には、第三世界の労組、人民組織のたたかい、「底辺へのレース」に強く抵抗している欧米での労働運動の活性化が存在する。以降、それは、タイやワシントンでの帝国主義が主催する国際会議への大衆的抗議として続いている。

次のターゲットは日本でのG8サ



メーテー集会後のたたかう労働者のデモンストレーション（5月1日）



各国代表団は、各地の争議現場での交流を行なった。

日本からの報告のなかでは、特に
七月沖縄サミットに対する国際共同
闘争を呼びかけ、沖縄現地闘争とA
WCが推進するアジア共同署名運動
への支持協力が要請された。国際労
働運動から見れば、第三世界の労働
運動における困難のなかでの前進、
欧米における抵抗戦の増大に比して、
日本は大きな陥没地帯である。最大
の組織である連合の地盤沈下、行き
づまりと限界は国際的にも認識され
、「連合はそもそも労組といえるのか」
という疑問すら投げかけられている
状況である。労働者の雇用と生活を
守れない連合の限界を見極めて、こ
れに対抗する左派労働運動が、民間
中小を軸にこの間、着実に拡大して
きている。これらの運動は、新たに



| ISA本会議ではグローバリゼーションとの闘争が主課題になった



世界的なたたかいのうねりの中に反帝国主義の旗をかかげよう

ミットである。フィリピンのNGOは、「シートルの事態はWTOの民衆に疑念を抱かせ、これに対するアトルの後、WTOは新たな大きな枠組みを作らねば動かなくなつた。それを作る場がG8サミットであろう。労働者こそその先頭にたたねりをう。労働者こそその先頭にたたねりをう。労働者こそその先頭にたたねりをう」と提起した。日本でどうこの国際的なたたかいのうねりを発展させるのか。日本の左派労組、人民組織、NGOはどう対応するのか。世界にどういう呼びかけを発するのか。海外から日本を見る眼はこのようであった。

に際して I L P S (国際人民闘争連合) のような組織をつくり、広範な人々とともに反帝国主義の立場からたかうことが必須である、との提起がなされ、とりわけ一二月にドイツで開催される I L P S 創立会議の重要な一部でもある労働分科会への参加要請が行われた。その趣旨は、次のようなものであった。グローバリゼーションの下で国際労働運動が結合する条件は増大している。しかし、それは手放しで賛美できるものではない。それは反帝国主義の路線方向に裏付けられねば、各帝国主義や政府・ブルジョアジーの利害のために容易に分断されてしまう危険がある。国際的に反帝の旗幟を鮮明にし、あらゆる自然発生的な運動の細流をそのもとに糾合していく労働運動を

■第17回ISA決議

G 8サミットに反対して闘う人民の運動に連帯する

・ 私たちは沖縄での先進国首脳会議（G8サミット）と沖縄米軍基地の強化に反対して闘う人民の運動にたいして連帯の意を表明する。

帝国主義列強は今年7月21日-23日に沖縄でG8サミットを開く。そこで世界的な反労働者的反人民的な政策をつくりあげようともくろんでいる。

このサミットは、人民の生活をさらに地獄に引きずりこんでいく世界貿易機構（WTO）－世界銀行（WB）－国際通貨基金（IMF）の計画を推進することを狙いとしている。これらの独占資本と政府は、シアトルでのWTO会議でできなかつたことを挽回し、世界中で高まりつつある人民の闘いにまきかえしをはからうとしている。

あわせて、彼らは人民の闘いをおしつぶすために、共同の軍事行動を強めようとしている。日本政府は、「国境をこえた犯罪や地域紛争を防止するための方策を作りだすこと」を重要な議題に入れている。

日米両政府は、G8サミットを米軍の戦略的拠点であり日米軍事同盟の拠点である沖縄で開催することを決断した。沖縄開催をもって、根強い沖縄人民の反対運動を解体し、米軍基地を強化しようとしているのである。

今、沖縄で、日本で、世界中で、労働者人民が、サミットと米軍基地に対して反対運動と共同行動を準備している。

AWC日本連は、沖縄とアジア太平洋から米軍基地を撤去し、日米軍事同盟を撤廃することを要求する署名運動を開始した。

私たち第17回国際連帯集会（ISA）参加者は、G8サミットに反対する人民の運動に連帯し、連帯メッセージを送り署名活動を支援する。

情勢のもとで労働者の生活と権利を守るために、研究、政策活動、全国キャンペーんをも包含した組合運動であり、ナショナルセンターを越えて、労働運動の最良の部分を含んでいる。

労働運動勢力として發展させていかねばならない。これこそ、第三世界はじめ、全世界で労働者人民が希求していることである。

「いろいろ」「日本でのG8サミット」と沖縄の基地強化に対する人民の反対運動を支持し連帯しよう」「韓国民主労総（KCTU）と自動車産業労働者の五・三一ストを支援しよう」などの一〇の特別決議を採択して成功裏に終了した。

計画は、日本の自衛隊による支援体制が整わず実戦化できなかつたが、新ガイドラインによつて今や態勢は整つた。日本政府は『日の丸・君が代法』の制定など、日本国民を戦争に精神的にも動員しようとしている。日米帝国主義は、朝鮮半島での侵略戦争を準備しているが、その目的は新自由主義を推し進めながらアジア全体を支配することにある。こうした情勢のもとで、南北首脳会談が実

朝鮮を極丘地として支配した一九四五年には南に米軍が進駐したが、朝鮮戦争の本質とは、南北が殺し合つた戦争ではなく、日米帝国主義がわが民族を虐殺した戦争であった。米軍の補給基地となつた日本は直接この虐殺に関与している。米軍の北への先制攻撃計画である五〇二七作戦

「一九〇五年の桂・タフト秘密協定以来、日米はアジアを分割支配し、日本帝国主義は四〇年間にわたって

アジア民衆が共同して米軍を撤退させてこそ会談の眞の成果が達成される」と集会参加者に訴えた。

平和への動きをアジアの平和へと実践化・現実化することが重要な課題となっている」と述べ、「南北首脳会談が平和をもたらすのではないか、

重大な情勢に触れて、「このような アジアにおける平和の兆しは平和運 動の成果であり、こうした南北での

ピールを受けた。

にかかる「アジア共同行動日本連絡会議共同代表」の名前で、表のあいさつに統いて、韓国から來ました。A.W.C.韓國委員会の代表のア

最初に「日米安保の目的はアジア民衆のたたかいの弾圧にある。民衆の未来はAWCによるアジア共同闘争

会館において、「日米のアジア侵略支配を許さない六・一五アジア共同行動集会」が開催された。集会では

6

• 15 東

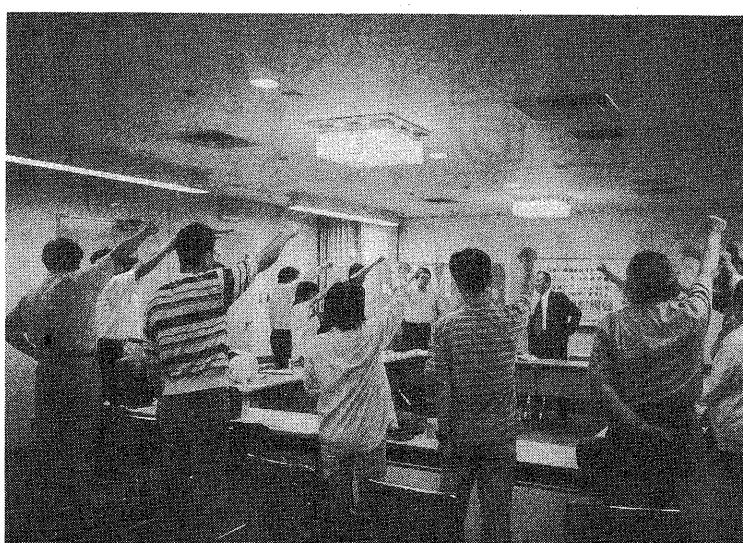
東京

六月アジア共同行動集会が成功

アジアからの米軍の一掃に向け
反サミット国際共同闘争を確認

6・15 東京

東京



6・19大阪交流討論集会



6・15アジア共同行動首都圏集会

立しないと主張し、在韓米軍の撤退を敵視する国家保安法が撤廃されなければ、北との真の平和的対話は成り立たない。また、学生たちは、北は、会談の真の成果を達成することはできない。一方で、韓国人たちは、会談の真の成果を達成することによってすべての米軍を撤退させなくては、会談の真の成果を達成することには、会談の真の成果を達成することはできない。また、学生たちは、北のアジアからの共同署名も、この運動の足場とな

半島の平和のために、すべての米軍基地・施設・部隊を韓國から撤退させることが重要であり、日本と米国に武器を捨てさせ、南北統一支持を表明させねばならない。したがって、北と南だけではなく、すべてのアジア民衆が戦争反対のために連帯し、

「今回の会談での懸念は、在韓米軍問題が言及されていないことである。今後、真の平和を実践化するためには、日米韓の軍事同盟を解体することが焦眉の課題である。米軍の撤退と軍事同盟の解体なしに、南北の眞の信頼関係は成立しない。朝鮮

ジア共同行動日韓国からのア

前野良さんが次行つた。「朝鮮私たちは戦争時された労働者たるというビラを

現し、平和の維持が証明されたことの意義は大きい」と、日米の侵略策動を弾劾し、歴史的な南北首脳会談の意義を確認した後、参加者に対しこれを要請して、民衆の抵抗を受けて以下のように提起した。

ジアからの米軍の一掃

極的要素がある。この首脳会談をあれこれと批判するのではなく、これを基礎としてどのようなアジア民衆連帯の構想をつくりだしていくのかが問うしたい。

満を破壊しており、先進資本主義国のでの労働者間の競争も激化している。各国の労働運動間で情報交換を進め、野放図なグローバリゼーションを規制する国際的な労働者の連帯をつくりだしていく必要がある」と述べて、六月三〇日から七月三日まで、韓国

「サミットは世界経済と支配秩序維持のための『世界の憲兵』」米国を中心とした利害調整会議。これを日本は沖縄でやることで米軍基地の重要性を世界に誇示しようとしている。グローバリゼーションと新自由主義は国家主権を超えてアジアの民族絆

上がるかが決定的だ。この情勢をチャ
ンスととらえて共にたたかいましょ
う」と訴えた。

続いて、一坪反戦地主会・関東ブロックの上原成信さんからアピール。上原さんは、南北首脳会談によって米軍の朝鮮半島駐留の根拠が崩れつあることに触れ、「南北統一はアジアからの米軍撤退に向かう流れ。しかし、そうなると敵はますます沖縄にしがみついてくるかもしれない。沖縄民衆の力だけでは勝てない。

この集会には約三〇〇人が参加した。この数年にわたって京都の左派労働運動、市民団体、学生団体などが共同して、政府・資本の生活破壊と戦争準備策動に対する集会に取り組んできたが、今回の集会はこれまでの努力を引き継ぎ、とりわけ沖縄サミットを前に名護への新たな米軍基地建設に反対する意志を強く押し出した。がら行われたものである。

集会の冒頭、主催者からの代表発言として、アジア共同行動京都・共同代表の鶴田律子さんが、石原発言・森発言と続いた排外主義・天皇制賛同

総じて在日韓国青年同盟京都市部から連帯発言があり、朝鮮半島の統一の実現に不可欠な米軍の韓国からの撤退、そしてアジア全域からの米軍基地の撤去のために共にたたかうことを呼びかけた。

その後、沖縄において名護新基地建設に反対するたたかいをまさに最先頭で担ってきた一人であり、一坪反戦地主会・北部ブロックの代表である安次富浩さんからの発言を受けた。安次富さんは、沖縄の反基運動を解体せんとする政府の圧力が強まっていることを報告することも、

6・1 京都

沖縄連帯を掲げて京都集会

名護新基地建設反対のアピール

言っている。不法に入国して悪さをしている外国人というなら、一ひといのは米軍でしょう。これまで色々と右翼から嫌がらせをされる経験はあつたが、恐いと思ったことは一度もなかつた。しかし今回は違う。抗議の手紙やメールを送つてくる人たちが、皆、名前・住所を書いていて、こちらから連絡がとれる。匿名の嫌がらせではなく、普通の人たちの間に石原発言への支持が広がつている。

石原はまず大衆に人気のない銀行を叩いた。次が外国人。これはファシストのやり方です。彼は『重度障害者には人格があるのか』とも発言している。彼にとって人間とは『健健康な日本人の男』のこと。ヒトラーと同じ選民思想、差別思想です。差別は戦争を起こします。私たちは石原

衆が相手だからです。正しい人たち
六月一九日、エルおおさかで、J
P.M.9.0の呼びかけによる「G-8の
横暴を許すな！アジアからの基地撤
去を！沖縄サミットに反対し、アジ
ア民衆と連帯する交流討論会」が開
催された。一連の六月アジア共同行
動の取り組みの一環として行われた
この交流討論会は、その直前の南北
首脳会談の開催という歴史的な情勢
を受けて、活発で熱心な意見交換の
場となつた。

反侵略アジア学生共同行動がフィリピンの提唱で交流討論集会

鴨居守さんから行われた。

の民主労総やフィリピンのKMUなどを招いて行われる労働サミットへの協力と参加を訴えた。

の発言に傷ついた。被害者を救い、加害者をはっきりさせることが運動の原則です。石原が私たちに向かって謝罪することが重要です。石原発言をインターネットで世界に知らせ、国連機関にも提出する予定です。世界の良心と手を結んで、最後まで石原を追求し、謝罪を要求します。今回のたたかいは難しい。石原だけでなく、差別主義が内部に芽生えた民

が正しいことを身内で主張しているだけでは絶対に勝てない。少しは良心の残っている人たち、これまでとは違った層の人たちに働きかけなければ駄目です。石原にノーと言つているのは全体の約二〇%。これを多いと思うか、少ないと思うか。これからが大切です。しっかりと皆さんと手をいっそりとつなげていきたい」。

ピン学生同盟と連帯した反サミット・キャンペーンを呼びかけた。その他、国立市で「日の丸・君が代」強制とたたかう市民活動家、そしてきたる沖縄でのサミット反対現地闘争と共にたたかう「沖縄サミット粉碎! 改憲阻止! 小選挙区制選挙弾劾! 労働者国際連帯集会 六・二五集会実行委員会」から連帯の発言があり、最後にまとめと行動提起が全国幹事の